

平成20年度第1回心理学教育 FD/IT 活用研究委員会議事概要

- I. 日時 : 平成20年7月30日(木) 午後2時30分から午後5時まで
II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室
III. 出席者 : 木村委員長、今井副委員長、今井久委員(記録担当)、中原委員、大島委員、
中澤委員、金子委員
井端事務局長、森下、恩田

IV. 議事概要

1. 心理学教育における学士力について

(1) 本委員会では「教育振興基本計画」や「中央教育審議会の審議のまとめ」の「各専攻分野を通じて培う『学士力』」をベースとし、その上に心理学固有の最低限の能力としての学士力を乗せるとしたら、どのようなものになるだろうかということを検討した。

(2) 「そもそも学士力とは何か」「心理学における学士力をどのように捉えるべきか」が話題となった。特に心理学の場合、「心理学部や心理学科で学ぶ心理学」「教養科目として学ぶ心理学」「各種資格のために学ぶ心理学」などさまざまな学習形態がありうるため、それらを総合的に捉える「学士力」の定義が難しいからである。これについては、まずは専門科目として心理学を学ぶ場合(つまり心理学をメジャーとする場合)を想定した学士力を構想し、それに教養や各種資格としての心理学における学士力を補足的に関連づけてゆくこととなった。そのようにしないと、心理学における学士力の焦点がぼけてしまうおそれがあるからである。

また、心理学の場合、学士としての質保証という点では、これまで社会に出てどれだけ活躍できるかということがあまり検討されてこなかったのではないかということが指摘された。

社会との接点ということ考えた場合に、果たして直接的に社会に貢献できる戦力としての心理学の学士力が定義できるのだろうかという問題も提起された。

これについては、社会との接点を重視しすぎると議論が発散してしまうおそれがあるので、まずは社会との接点という問題はペンディングとし、「心理学としてどのような学士を送り出したいか」というイメージに焦点を当てて議論することとなった。

(4) 具体的な作業としては、委員が作成した学士力案の2番を出発点に、各委員が心理学における学士力について再検討し、試案を持ち寄ることとなった。

(5) 試案は、中央教育審議会の審議のまとめの「各専攻分野を通じて培う『学士力』」をあくまでベースとし、その上に心理学の専門教育が乗るということを前提とし、最終的には2点ないし3点の提案を各2～3行でいどの記述でまとめることとなった。

(6) 今後のスケジュールとして、8月下旬を目処に各委員が心理学の学士力の試案をまとめ、8月28日(木)の委員会に持ち寄ることとなった。

そこで委員会としてのたたき台を作り、インターネットを通じて会員に意見を求めるアンケートを9月に実施することとなった。

2. 今後の活動について

(1) 8月下旬を目処に、各委員が心理学における学士力の試案を考え、持ち寄る。

次回の委員会で委員会案を決定し、9月中にインターネットによりサイバーFD 研究員へのアンケートを実施する。

その結果を踏まえて、心理学における学士力の最終案を決定する予定である。

3. その他

- ・ 次回の委員会:8月 28 日(木) 午後2時から午後4時まで
場所:私情協事務局
- ・宿題:心理学における学士力の試案を作る。 締切:次回委員会の前まで